

指導資料

特別支援教育 第205号

鹿児島県総合教育センター
令和2年4月発行

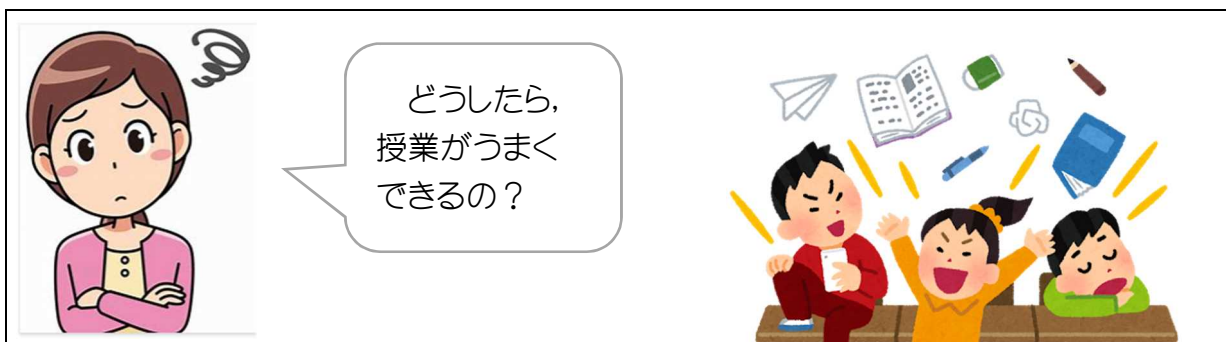
対象 小学校 中学校
校種 義務教育学校 高等学校



短時間でできる学年部におけるケース会議 － 校内支援体制の充実に向けて －

特別支援教育に対するニーズが高まり、特別支援教育コーディネーターを中心に校内委員会で校内支援体制について組織的に対応・協議しているが、支援方法を導き出すことに困難さを感じている学校が多い。そこで本稿では、学年部におけるケース会議の実践例を提案する。

1 A小学校の校内委員会



B先生は、学年主任や特別支援教育コーディネーターに授業の悩みや子供への対応の仕方など相談し、校内委員会を開催することになった。

B先生は、支援が必要な児童の資料を事前にまとめ、校内委員会に出席した。

校内委員会では、これまでの学級での取組に対する質疑応答が主で、具体的な支援策は決まらなかったが、校内支援体制として、特別支援教育支援員を週に3時間配置することは決定した。しかし、先生の悩みは、それからも続いた。



校内委員会をしたのに、これからどうしよう。

A小学校における校内委員会では、なぜ具体的な支援策まで決まらなかったのでしょうか？

2 学年部におけるケース会議

A小学校のように、定例の校内委員会で個別の事例を検討している学校もある。しかし、協議する時間の確保が難しかったり、対象児の具体的な支援策を協議するなど、会議の詳細まで決めていなかったりする現状がある。

そこで、タイムスケジュール（図1）、ケース会議シート（表1）を使用した学年部におけるケース会議を提案する。

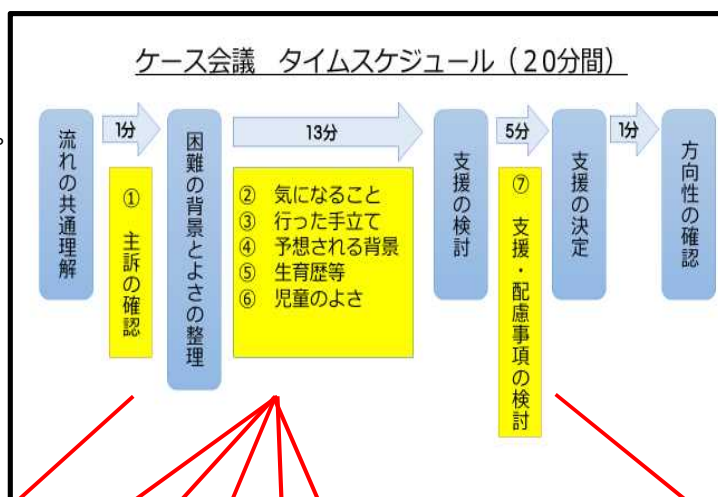


図1 ケース会議のタイムスケジュール

表1 ケース会議シート

ケース会議資料 ○○小学校		○年○組	氏名	生育歴等		
会議日	出席者			⑤ 相談歴、引き継ぎ事項等を記入する。		
主訴 ① 主訴を確認する。						
主な教科	学習活動	気になること	行った手立て	予想される背景	児童のよさ	支援・配慮事項（共通して取り組むこと）
国語 社会 外国語	聞く	② 主訴に関わるだけでなく、当てはまる項目に、記入する。	③ 有効であったかを区別して記入する。	④ 学習面・生活面・行動面・主訴の背景を記入する。	⑥ 主訴に関わるだけでなく、会に出てきたよさは全て記入する。	⑦ 取り組める支援をチェックする。順番や役割分担等を記入する。
	話す					
	読む					
	書く					
算数 理科	計算する					
	推論する					
図工	制作等					
音楽	歌・器楽					
体育	運動・ゲーム					
生活面 行動面	対人関係					
	こだわり					

◎ 主訴に関する項目を簡潔に記入する。

- ・ 全てを埋める必要はない。
- ・ できるだけキーワードで記入する。

特別支援教育コーディネーターは、担任からの相談を受け、学年部におけるケース会議を開催する。学校の実情に応じて、開催日や出席者を決定するが、協議が活発に行われるための人数調整も大切である。担任へケース会議シート（表1）の記入（①～⑤）を依頼するが、簡潔に記入することで、文書作成の負担軽減を図ってほしい。

ケース会議では、タイムスケジュール（図1）を出席者に配布して、協議の進捗を見ながら項目ごとに話し合うようにする。⑥・⑦の項目については、出席者の意見を記入していくようにする。また、④の項目についても、出席者の意見を追記する。支援の決定では、担任の意向を重視して行うようにする。

2回目を実施する場合は、支援経過の確認、支援の追加・変更などを行うと良い。

3 事例

(1) C小学校の学年部におけるケース会議

担任から相談を受けた特別支援教育コーディネーターは、管理職と参加者について相談し、学年部職員でケース会議を開催することにした。ケース会議シートは、表2のとおりである。

※ 表2の■は、ケース会議で各職員からの意見をまとめたものである。

表2 C小学校におけるケース会議シート

ケース会議資料 C小学校		1年2組	氏名	D児	生育歴等	
会議日 1回目5/20		出席者 学年部職員4人, 養護教諭, 特別支援教育コーディネーター			父・母・兄・本人の4人家族, 幼稚園から支援対象児として引継ぎ有り	
主訴 学習に集中することが苦手で、離席が多い。					(年長時にADHDの診断)	
主な教科	学習活動	気になること	行った手立て	予想される背景	児童のよさ	支援・配慮事項 (共通して取り組むこと)
国語	聞く	<input type="checkbox"/> 聞きもらしが多い。	<input type="checkbox"/> 個別に言葉掛けを行っている。	■ 周囲が気になることが多い。	■ 聞いていないようで聞いている。	<個別的な支援・配慮> ■ 座席配置の工夫 (他児とのペア学習) ■ 板書と同じプリントの準備 <学級への支援・配慮> ■ 学習の流れと時間を提示 (他児とのペア学習) ■ 教室環境の整備 (刺激の多い物を整理) ■ 学級全員で遊ぶ日を週1回設定 <学校の支援・配慮> ■ D児の教育相談に特別支援教育コーディネーターが参加
	話す	<input type="checkbox"/> 自分勝手に話すことが多い。	<input type="checkbox"/> 絵カードを使用する。	■ 聞く場面と話す場面が分からないことがある。	■ 登場人物の気持ちを発表することができる。	
	読む				■ 大きな声で教科書を音読することができる。	
	書く	<input type="checkbox"/> 書いた文字が乱雑である。	<input type="checkbox"/> 枠を拡大したプリントを使用する。	<input type="checkbox"/> ノートの書き方が分からない。		
算数	計算する	<input type="checkbox"/> 離席が多い。		■ 学習の見通しがもてない。	■ 足し算・引き算は、暗算でできる。	
	推論する					
図工	制作等				■ 絵画よりも制作活動が好きである。	
音楽	歌・器楽	<input type="checkbox"/> 楽器の扱いが乱雑である。	<input type="checkbox"/> 片付け係を設定する。	■ 片付け方が、分からない。	■ 歌を歌うことは、好きである。	
体育	運動・ゲーム	<input type="checkbox"/> ボール運動では、興奮してトラブルになることが多い。	<input type="checkbox"/> ゲーム前にルールを確認する。	<input type="checkbox"/> ルールの理解が難しい。	■ 「走る」「跳ぶ」など基本的な運動は得意である。	
生活面 行動面	対人関係	<input type="checkbox"/> 興奮して相手に手を出してトラブルになることが多い。	<input type="checkbox"/> トラブルの経緯について確認して指導を行っている。	<input type="checkbox"/> 感情のコントロールに課題がある。	■ 仲の良い級友と外で元気に遊ぶ。	
	掃除・手伝い				■ 雑巾掛けが得意である。 ■ 手伝いを率先して行う。	

ケース会議は、タイムスケジュール(図1)を参加者に配布して行った。進行は、特別支援教育コーディネーターが行い、参加者6人全員が意見を述べる機会を設定することができた。参加者は学年部職員が主であるので、D児の実態をよく知っており、これまでの対応についての質疑はほとんどなく、現在行っている支援策の共有化を図ることができた。

D児のよさを協議する場面では、担任が気付いていなかった掃除や手伝いに対する積極的な態度や頑張っている姿について隣接学級の担任から情報提供があった。

D児の学習面に関する背景要因については、担任が分からなかった「聞く」、「話す」、「計算する」に絞って協議が行われた。

支援・配慮事項は、3つのカテゴリー（個別的、学級、学校）に分けて協議が行われた。協議の概要については、表3のとおりである。

表3 支援・配慮事項の概要

	支援・配慮事項, 主な理由
個別	<ul style="list-style-type: none"> ペア学習は、固定ではなく、意図的にほかの児童とも行う。 → グループ活動において有効的に活用できるから
学級	<ul style="list-style-type: none"> 教室環境の整備(棚の使用の仕方、共通教材の配置、掲示物の仕方など)は、学年部で共通して取り組む。 学級で遊ぶ内容の設定については、学年部で遊ぶ内容やルール設定や集団構成など今後検討する。 → 全ての児童に有効であるから
学校	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育コーディネーターが発達検査の実施と有効性の説明を保護者に行う。 → 学びのスタイル(得意、不得意)に合わせた支援が必要であるから

(2) 2か月後のD児の変容、支援の有効性
支援・配慮事項の有効性については、表4のとおりである。担任が、D児の変容から3段階で有効性を評価している。

表4 支援・配慮事項の有効性

支援・配慮事項	有効性
座席の配置(ペア学習)	◎
板書と同じプリントの準備	△
学習の流れと時間を掲示	◎
教室の環境整備	◎
学級全員で遊ぶ日の設定	○
保護者との教育相談	◎

D児は、授業中の離席が減り、苦手であった国語と算数においても、担任や周囲の児童の支援を受けながら授業に参加することが多くなった。しかし、文章問題の意味を理解することが難しい場面があり、個別的な配慮や支援がより必要になっている。

学級全体で遊ぶ日の設定で、いろいろな級友と接することで遊びのルールが分かり、トラブルは少なくなっている。遊びの中で、まだ感情の起伏が激しい場面があるので、感情のコントロールの仕方については個別的な支援が必要である。

4 おわりに

各学校で校内委員会は、年間行事で設定し実施しており、就学に関することや支援体制などについては十分な協議がなされている。しかし、困っている児童生徒や担任への具体的な支援策まで協議されている学校は少ない。学年部におけるケース会議を開催し、ケース会議シート(表1)を使用して、具体的な支援策が協議されることを期待している。

－引用・参考文献－

- 福岡市発達教育センター『ケース会議マニュアル』平成25年
(特別支援教育研修課 宇田 学治)

※ 見やすいフォントを使用しています。
※ ケース会議シート(表1)、ケース会議タイムスケジュール(図1)は、当センターWebサイトからダウンロードして活用してください。